

# 国際文化交流学科 — 学科祭報告

今年度新設された国際文化交流学科の第一回学科祭が11月12日（日）、川崎市国際交流センターにて行われた。「国際文化交流へのFirst Step」をテーマとした初めての学科祭。その始まりは、もうすぐ夏休みが始まる7月のある日だった。

## はじめの一步

「夏休みどうする？」そんな話題が飛び交う中、2人の学生が鳥越研究室の戸を叩いた。

「学科祭をやるう」

これから何が始まるか、全くわからぬまま、やってみたいことをがむしゃらに言い合い、その日の授業で学生に呼びかけた。

7人が集まり、早速会議を開いた。さまざま

な意見が飛び交った中で「国際人として活躍できる人になろう」というテーマをもとに、セミナー・マルパーティーを開催することに決まった。その中で将来、国際的な舞台で必要と思われるパーティーでのマナーを身につけ、ステージ発表やスピーチなど行い文化交流を目指す。多彩な外人ゲスト・日本人ゲストを招き、会場内で学生一人ひとりが国際交流を実践する場を提供することとした。また、学科祭に関連させて、マナー講座を行うことも決めた。

## 戸惑いながらの交渉

やることが決まったが、パーティーではどんなことすればいいのか、企画したことはもちろん、参加したことすらなく、戸惑いながらも、ゲストとの交渉に取り組んだ。

外国語学部 国際文化交流学科1年 鹿庭 敬太

ステージゲストには、阿部 恒憲さんを迎えることに決まった。阿部さんは、アメリカのバークリー音楽院で出会った仲間で結成されたジャズコーラスグループ「syncopation」の唯一の日本人メンバーでリーダーをつとめるミュージシャン。世界13カ国で演奏経験があり、現在はボストンを拠点に活動している。学科祭当日に日本にいることを知り、交渉し、すぐにご快諾頂いた。

マナー講座の講師には、堺真理子さんを迎えることにした。東京都労働局講師の堺さんは、国内だけでなく海外でも国際マナー講座を開講し、またその対象も政府機関から学校までと多岐にわたり、さらに国際交流パーティーの主催

まで行うという活発な活動をされている方で、「国際舞台で活躍するためのマナーと人間力」と題した特別授業を受け持っていたくことになった。

## 34人／103人

後期の授業が始まり、料理の関係から人数を決める必要もあり、授業内で学生に学科祭があることの告知と参加受付を行った。テーマをよりわかりやすく、よりシンプルに、そして記憶に残るようなことばとして、「国際文化交流へのFirst Step」に変更し、学科生みんなそれぞれの国際交流への第一歩を踏み出す、そんな場所をプロデュースすることとした。

授業の時間をいただき、プレゼンテーションを行い、翌週、出欠表を提出してもらった。出席者の数を数えたとき、企画部内に衝撃が走った。

回答56人 出席34人

どうすればいいかわからなくなった。出席表明した人が学科生のわずかに約三分の一だなんて……。僕たちは国際文化交流学科の第一期生で

あり、初めての学科祭なのだから、もっと学生一人ひとりに参加する意欲を作る必要が出てきた。とにかく人数を増やそうと、約四割の無回答の学生（＝学科祭が催されることを知らないと思われる学生）へもっと知らせれば参加人数も増えてくると考え、ホームページや授業などで告知し、最終締め切りには、当初予想していた80人よりは非常に少ないが、約半数の56人まで増えた。

## 最高の学科祭のために

こうして学生の参加人数も決まり、次いで留学生と学科教員の出欠を確認し、明確な参加人数が決まった。僕たち、学科祭の企画部は、予想より少ない人数だが、参加を表明してくださった方々のために最高の学科祭を創り上げようと、より力が入ってきた。学科祭まで残すところ一ヶ月。大まかな進行プランは出来上がってきたが、その一つ一つの具体的な内容が曖昧なままだった。つまり、これから学科祭当日までの一ヶ月間が、本当に最高の学科祭にするために残された期間であり、試練でもあった。

## マナーから生まれる新しい視野

11月2日、ついに迎えたこの日。企画部の成



果が最初に現れる日であり、学科祭のための知識をしっかりと身につけるために用意された日。そう、堺さんのマナー講座が開催された。14時40分、チャイムが鳴り、堺先生、鳥越先生が教室にいらした。堺先生の簡単な自己紹介の後、ゲームや体験談をもとにしたお話、そしてマナーの実演、ロールプレイなど、どれもが新鮮で、「少し大人になった」そんな気がしたとともに、しっかりと学んだ事をいかなる場を創りたいと改めて思った一時間だった。

## すべてが一つになる時

残り時間もわずか、会議ですべてを洗い出し、



き上げたチャリティーソング。阿部さんにとっても思い入れのあるこの曲をゲストボーカルに植田有由実さんを迎え、熱唱していただいた。会場内ではすすり泣きの声があちらこちらから聞こえた。

会場を感動の渦に巻き込んだ阿部さん。実は当日は阿部さんの誕生日で、参加者全員



で誕生日をお祝いした。

演奏終了後、サプライズとして用意したケーキとワイン、そして、参加者全員による「ハッピーバースデートゥーユー」の歌声をプレゼント。

その後、阿部さんも交流会に加わり、学生との会話を楽しんでいた。

#### 阿部恒憲さんからのメッセージ

学科祭では、皆さんとお会いできてとても楽しかったです。今後国際人として活躍されていく皆さんは、人生の20代のうちは、いくつかの選択肢のうち「決して楽ではない道」を選ぶべきです。困難は、乗り越えられる人へのみ与えられるもの。困難から逃げずに、チャレンジする姿勢を忘れないでください。またお会いできる日を、心より楽しみにしております。

つね



**会場利用許可書が行方不明**

このままでは会場に入る事ができない。四ヶ月の努力が水の泡になってしまう。そんな焦る気持ちで寝られなかった。

当日の早朝、先生から電話がかかってきた。いつもの笑い声を交えながら、「僕が持っていますよ」

この一声で一気に脱力しつつも、気合を入れなおし、会場の準備に取りかかった。



司会のアナウンスが入り、部長、鹿庭の挨拶。次いで留学生の紹介があり、学科長、鳥越先生による乾杯によって幕が開いた。

料理を片手に、途中、簡単なゲームを挟みつつ、先日学んだマナーを実践しながら初めて出会う人との会話を弾ませていた。

中盤には、学科生2名と留学生2名によるスピーチをしてもらい、参加者に分の考え、価値観、体験談などを話していただいた。スピーチのテーマは、

やる事がまだたくさんあることを確認すると、企画部がにわかに忙しくなってきた。あれはどうだろうか、これはどうだろうか。ひとつひとつを確かめあい、共有していった。会計、渉外、会場、ゲーム、ゲスト、広報、事務……それぞれの仕事の枠がはずれ、すべてがひとつになつていくのを強く感じられた一週間であった。

#### 最高の一夜のはじまり

当日は、北風が強く、とても肌寒い天候だった。そんな中、16時40分、会場の扉が開き、学科祭に参加する人たちが続々と集まってきた。シャンデリアが照らす部屋。なかなかの雰囲気。会場に漂う中、定刻より5分遅れで学科祭が始まった。

次の通り。

永井春菜さん 「Understanding religion is equal to understanding people」

ザイシャリさん 「日本人と日本文化について」  
チン・カケツさん 「一人旅から知った日本」  
笹日向子さん 「What does cross culture means?」

#### 学科祭の最高潮への音色

後半戦に入り、盛り上がるさなか、アナウンスとともに、ピアノの音色が響き始めた。学科祭のメイン、阿部恒憲さんのステージだ。

演奏とともに、学生時代の夢や、Syncopationなどで活躍する日々、そして海外へ行くときに必要な知恵を伝授していただいた。

最後の曲、「There is Hope」は阿部さんが書





終わりではなく始まりへ

楽しい交流の時間もあっという間に終わり、最高の盛り上がりを見せた学科祭も残念ながら終焉を迎えた。しかし、学科祭は終わろうとも、これは決して終わりではない、むしろ始まりの第一歩、First Stepなのだから。

この学科祭の余韻がいつまでも続き、それが各自のFirst Stepへの大きな力となってほしい。そして、それが国際文化交流学科の発展につながることを強く願う。最後に、今回の学科祭運営にあたって、鳥越輝昭先生、鈴木彰先生ほか、学科関係者の方々、人文学会の皆様感謝し、筆を置く事にする。



国際文化交流学科第1回学科祭Website  
<http://www.fry.to/kokusaibunka/>